

テーマ別の検討5 男女共同参画・働き方

1.市民意向調査等からみられる現状と課題(自由回答を含む)

(1)配偶者の子育てへの関わり

8割の父親は子育てに「協力的」

調査の回答者が母親の場合に、配偶者である父親の子育てへの関わりについて尋ねたところ、就学前の約85%、小学生の約78%が「非常に協力的である」もしくは「比較的協力的である」と回答している。

配偶者の子育てへの関わりが子育て不安に影響

クロス集計で分析したところ、配偶者が「協力的でない」とする場合に子育ての負担・不安などのマイナス意識を持つ割合が高くなっている。

自由回答でみられた意見

●父親の育児参加について

父親の育児参加は必要。特に子どもが病気の時には協力が必要になる。会社の制度だけがあるのでなく、実際に父親が育児のために休みを取りやすい環境にしてほしい。母親の負担を軽くするためには、父親の育児参加意識を変えねばならない。

小学校の入学説明会が、平日の昼間に行われている。これは大方の父親の参加機会を最初から奪うようなものです。父親が教育に参加できるような施策をお願いします。

●家庭内の役割分担

子育てを母親一人にさせないでほしい。父親は都市部へサラリーマンとして仕事に出かけ、帰宅は深夜、平日はいないも同然。会社で働いて経済的に家庭を支える事が父親の仕事になっている。地域の繋がりもない今の世の中では、母親が一人で何もかも背負うことになる。母親は父親を必要としています。父親も地域も社会(企業)も子育ての担い手である自覚を持って欲しい。

父親は仕事、母親は家事・育児という時代は終わったなどと言われているが、実情は父親は仕事が忙しく、核家族化が進んでいる中で、母親の育児負担は大きい。

(2)就労の状況

増加する女性就業

統計資料をみると、府中市は全国平均とくらべて就業者に占める女性の割合が少ないが、年次推移でみると女性就業の割合が増加しつつある。

年齢別女性就業率についても、20代後半から30代にかけて率が落ち込むM字カーブが緩やかになってきている。

共働きは就学前3割、小学生4.5割

調査結果では、共働きは就学前約3割、小学生約4.5割であり、子どもが小学校に上がると母親が就業を再開している場合が多いと考えられる。

大半が被雇用者

調査結果によると、就労している場合はその大半が「常勤の勤め人」、「パート・アルバイト」等の被雇用者である。

職場環境整備への希望

調査で子育てと仕事の両立をしやすくするための職場環境整備への希望を尋ねたところ、「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く半数程度から挙げられていた。他には、職場における理解の広まりや再雇用制度など各種制度の導入・定着、企業内託児所の整備などを求める意見がみられた。

自由回答でみられた意見

●就労と子育ての両立

私は夜勤があり、父親の仕事が終わる時間も遅い。しかし二重三重保育は子どもへの負担が大きいと思う。子どもの体や気持ちへの負担と、自分が仕事を続けることをはかりにかけ、仕事を辞めていく母親は多いのではないかと思う。

産休制度のない会社だったので仕事をやめたが、仕事が決まっている人でないと保育園には入れないし、預け先が決まっていると就職できない。

働いているお母さんは、地域の他のお母さん達となかなか交流がもてない。たまに交流できたとしても、働くママと専業主婦ママとでは話が合わない。働くママ同士の交流の場があればよい。

子どもの病気でも仕事を休むのはなかなか難しいのに、学校の保護者会などは平日の昼間ばかりで、出席できるような状況ではない。

子どもはたくさんほしいと思っていても、職場でのこれまでの対応を見ていると、諦めざるを得ない。かといって仕事をやめると、経済的にやはり子どもを持つのは難しいと思う。

●働き方に関して

平日の午前中パートタイマーで働いているが、夏休みなどの長期休暇時に休みを取りづらく悩んでいる。

未認可保育室の保育料が高額なため、パート就労では保育料を差し引くと赤字になりうる。これでは何のために働いているのかわからない。

預かりの金額が高くて、働いても生活は楽にならない。ボーナスカットや昇給が無い会社が多い時代に、20代の親では共働きでなければ生活できない。

仕事上、常勤になりたくても、日・祝日は主人が仕事のことも多く、他に子どもを見ててくれる人もいないので、パートでしか働けなかった。

一般の正社員は17:30～18:00終業が多いと思うが、都心の会社に勤務していると、19:00までの保育園に間に合うためにはすぐに退社せねばならず、残務処理もできない。

2.施策・事業の現況と課題

(1)男女共同参画の啓発

府中市では、職場・地域・家庭などのあらゆる場面において性別役割分業などの既成概念にとらわれる事なく、男女に関わらず一人一人が個性と能力を十分に發揮できるように、男女共同参画意識の啓発を進めている。

子育てに関しては、家庭における父親の育児参画の少なさが問題とされており、それが母親の子育て負担・不安に影響を与えていることは調査でもわかっており、子育ての観点においても男女共同参画意識のより一層の普及啓発を進める必要がある。

事業	事業の内容・実績	課題等	今後の方向性 (21年度まで)
男女共同参画の講演・講座	女性問題についての理解や女性の経済的・社会的自立を図るため講座等を開催し、市民の自己開発を支援し、男女平等の視点から、様々な普及啓発活動を実施する。 (現況) 平成12年度から18年度までの府中市男女共同参画計画「男女が共に参画するまち府中プラン」の5つの目標に沿って講座・講演。23回(16年度予定)	●一人でも多くの市民に講座・講演会を受講していただく。	●現状維持 ●「男女共同参画社会」の実現に向け、女性センターを活用していただけるように魅力ある講座・講演内容の検討をしていく。
女性センターによる情報提供	男女共同参画意識の啓発事業の一環として、市民の自己啓発、自主研究、実践活動を支援し、女性センターの総合的運営及び機能の充実を図るために男女平等や女性問題に関する多くの情報を収集・整理し、提供する。 (現況) 図書・行政資料等の文字情報、ビデオやカセット等の視聴覚情報を使った情報の収集 図書資料の閲覧、ビデオ等の試写・検索、展示・掲示などの情報提供 新聞・雑誌の切り抜きなどの情報の整理、加工 男女共同参画についての女性センター情報誌「スクエア21」の発行	●特になし	●女性問題や男女共同参画社会を正しく理解していただくための図書や資料が豊富に揃っているので、多くの市民の方に女性センターをご利用いただけるようPRをしていく。 ●女性センター情報資料室で所蔵する図書資料を常に有効な利用状態に整備、維持するために資料の更新を円滑に行っていく。

(2)就業環境整備と働き方の見直し

男性が家庭における役割を十分に果たすことができていない背景には、職場における長時間就業の恒常化が大きく影響している。

また働く女性も、子育てと仕事の両立に関して悩み、そのいずれをとるか選択をせざるをえない場合も少なくないことが調査結果の自由回答でも指摘されていた。

男性も女性も家庭と仕事のバランスのとれた働き方が実現できるように、企業等における就業環境整備を促進するなどの取り組みが必要となっている。

事業	事業の内容・実績	課題等	今後の方向性 (21年度まで)
関係機関との共催による啓発活動	関係機関との共催のもとに、労働セミナー・相談等の啓発活動を行う。 (現況)労働セミナー、労働相談の実施(東京都との共催)	●特になし	●現状維持
就業環境整備への取り組み	職場における男女平等の実現や女性の就業機会の拡大が図られるよう、関係機関に働きかける。また、結婚、出産、育児、介護への参加を促すとともに、保育サービスや介護支援を充実し、女性が働き続けるために障害となることからの排除に努める。	●家庭と仕事のバランスのとれた働き方が実現できるように、企業等における就業環境整備を促進するなどの取り組みが必要	●各種子育て支援施策の実施